

第42回 緑の市民懇話会 会議録（要旨）

1 日 時 平成30年 3月 1日（木） 10:00~12:00

2 場 所 生駒市役所 401・402会議室

3 出席者

（委員） 久座長、下村委員、磯貝委員、稲葉委員、大鋸委員、倉品委員、山田勲委員
山田陽子委員、岩井委員、北島委員

（事務局） 上村都市整備部長、林みどり公園課長、大神花のまちづくりセンター所長、
石田みどり公園課課長補佐、竹田みどり公園課係長、中川みどり公園課副係長

4 議事内容

（1） 開 会

（2） 案 件

花と緑の景観まちづくりコンテストについて

① 現地審査結果について

② 平成30年度コンテスト応募要領等について

（3） 事業実績報告

みどり公園課所管の緑化推進に係る事業及び花のまちづくりセンターに係る事業実績につ
いて

（4） その他

5 議事録

（1） 開会

（2） 案件 花と緑の景観まちづくりコンテストについて

① 現地審査結果について

【事務局説明】

資料2-①-1 第10回花と緑の景観まちづくりコンテスト現地審査総合結果に基づき審査状況の説明。

・コミュニティ部門7件、学校部門3件、事業所部門3件、個人住宅部門4件、合計17件を春・秋・冬3回の現地審査を実施し、計8項目について評価していただいた。

現地審査結果は、年間合計、年間平均、部門順位、全体の総合順位を記載している。

これらの結果を基にご協議いただきたい。

【委員意見等】

- ・現地審査の結果で、各賞を選考していく。(発言)

<選考：最優秀賞・優秀賞>

- ・総合順位ではコミュニティ部門③が最優秀賞、コミュニティ部門④が優秀賞となりますがよろしいか。
(発言)

⇒異議なし。

- ・最優秀賞はコミュニティ部門③、優秀賞はコミュニティ部門④ に決定。(発言)

<選考：コミュニティ部門>

- ・最優秀賞と優秀賞に次ぐ①②から選考してよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

- ・デザイン性の点数が高い①が景観賞、②がまちづくり賞でいかがか。(発言)

⇒異議なし。

- ・景観賞は①、まちづくり賞は②に決定。(発言)

<選考：学校部門>

- ・得点は③②の順になっている。この2つから選考してよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

- ・②は、地域のボランティアが多く関わっていることから、まちづくり賞がよいのでは。③は生徒が景観に配慮し活動している。(発言)

- ・景観賞は③、まちづくり賞は②でよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

<選考：事業所部門>

- ・得点は、①③の順になっている。この2つから選考してよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

- ・③に景観賞はいかがか。(発言)

- ・①はビルテナントの一部が関わっているだけ。なので、まちづくりでなく、景観賞なのではないか。
(発言)

- ・大差はないように思う。(発言)

- ・景観賞は①、まちづくり賞は③でよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

<選考：個人住宅部門>

- ・得点は、③①の順になっている。この2つから選考してよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

- ・①は、家族ぐるみで取り組まれており、近隣に(花と緑の)波及が見られることから、まちづくり賞
③が景観賞でいかがか。(発言)

⇒異議なし。

<選考：その他>

- ・ 昨年は、入賞しなかったが得点が7割を超していると特別賞を差上げた。今年度だと、コミュニティ部門⑤、個人住宅部門②が該当する。この方々に特別賞を差上げてよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

- ・ 事業所部門②が、春審査は植替え時期で維持管理項目の評価しかされていない。秋と冬の合計点数だと7割を超す。どうしたものか。(発言)
- ・ 少人数で頑張っているし、(受賞することで)励みになると思うので差し上げてよいのでは。(発言)
- ・ 事業所部門の応募が増えてほしいという意味もこめて、特別賞を差上げてよろしいか。(発言)
- ・ 昨年と同じ審査員奨励賞という名称でよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

- ・ 個人住宅部門④は、今年度から設けることとする新人賞が該当する。この方に差し上げてよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

<総評>

- ・ 学校関係にコンテストを知らない学校もあるのでは。(発言)

⇒参加を呼びかける声かけをし、案内板にも掲示する。

- ・ 個人住宅部門で、外部から見えず、奥まで入って見たものについては、審査対象としてよいと思う。(発言)
- ・ 新しい参加者の応募促進のため、初めての応募者対象に新人賞を今年度から設けたらどうか。(3年間の意見有)(発言)
- ・ 季節や項目等において特化して良い得点を出している所に、新たな賞を考えてはどうか。集計表の作り方次第で特別なものをクローズアップできる。これらの意見から、得点の集計表である現地審査総合結果を、景観面の合計、まちづくり面の合計、季節合計の順位を表示するなど工夫できる。(発言)
- ・ コミュニティ部門④の審査範囲は狭いが、敷地内の別の団体が管理しているのもあわせて、敷地全体での応募となれば審査範囲も広がり、最優秀賞の可能性も大きくなる。問い合わせがあれば、助言して良いと思う。(発言)
- ・ 応募者が固定してきており、綺麗に管理できている所を委員が発見し、他薦・推薦してもよいのでは。(発言)

<結果>

- ・ 最優秀賞 コミュニティ部門③
- ・ 優秀賞 コミュニティ部門④
- ・ 部門賞(景観賞・まちづくり賞)
 - コミュニティ部門(景観賞①・まちづくり賞②)
 - 学校部門 (景観賞③・まちづくり賞②)

- | | |
|---------|--------------------------|
| 事業所部門 | (景観賞①・まちづくり賞③) |
| 個人住宅部門 | (景観賞③・まちづくり賞①) |
| ・審査員奨励賞 | コミュニティ部門⑤、事業所部門②、個人住宅部門② |
| ・新人賞 | 個人住宅部門④ |

・以上のとおり、生駒市緑の市民懇話会の意見として市へ報告したが、報告に関してご一任していただいてよろしいか。(発言)

⇒異議なし。

② 平成30年度コンテスト応募要領等について

【事務局説明】

- ・平成30年度、資料2-②-1 応募要領(案)及び資料2-②-2 審査要領(案)を作成している。今年度の内容と若干変更しており、赤字部分が変更点である。
- ・審査要領(案)で、審査方法については①に「ただし、審査委員本人又は関係団体が応募した事例については、当該審査委員による審査は行わないこととします。」を追記している。
- ・団体には助成金で市からのサポートがある。しかし、個人についてはそのような制度がなく、ご家族だけで活動しており、コンテストにおいてはハンディがあると感じているので、励みになるようなものがあればと思う。第11回は4月1日号広報等で募集が始まるので、大きな制度変更は厳しい時期であるので、次回第12回目では、ご意見を反映したいと思う。

【委員意見等】

- ・新人賞や、応募特典で参加賞があることを明記しPRしてはどうか。(発言)
- ・資料2-②-1 応募要領(案)の応募対象、花育てや緑化の活動に取り組んでいこうと思われている団体というような文言にしてはどうか。(発言)
- ・4月の応募だが、これから応募を考えても間に合うということを強調し、積極的に広く知らせてはどうか。(発言)

(応募方法)

- ・ネットやインスタグラムでの応募や、応募用紙は、印をつけるだけの欄と別途自由記入欄を設けるなど簡単に応募できることを印象づける見たいにしてはどうか(発言)

⇒活動計画書が一番大変だと思うので、提出は任意にするか、様式を、丸をつける・アピールしたい方は自由に記入できる欄を設けたものに変更するなど検討します。

- ・これらの意見をもとに、4月1日に間に合うように準備願いたい。懇話会の代表として相談させていただければと思う。(発言)

(3) 事業実績報告

みどり公園課所管の緑化推進に係る事業及び花のまちづくりセンターに係る事業実績について

【事務局説明】

- ・今回の懇話会をもって、交代される方もおられるので、現在までの「生駒市緑の基本計画」を推進す

るにあたり、皆様からいただいたご意見を基に、みどり公園課所管でおこなってきた成果を事業実績報告として報告させていただく。

尚、資料3 「事業実績」には、各事業について「生駒市緑の基本計画」中、該当する施策を併せて表記している。

(各資料を見ながら報告)

- 資料3-1 「みどりの基金について」
残高は約6千3百万円である。
- 資料3-2 「花と緑のボランティア講座」の概要
森林ボランティアを養成する目的を発揮させるために、里山編を開校したが、参加者は19人だった。参加者は楽しかったと感想を述べられていた。
- 資料3-3 「樹林地バンク制度」
これまで協議が成立したのは3件、協議不成立は9件。
- 資料3-4 「市民の森事業」
七夕飾り作り、長さ30mの流しそうめん、シイタケ狩り、野鳥観察や幼稚園・保育園の遊びの場に活用。生駒台小学校4年生は毎年自然観察の授業で使用している。
- 資料3-5 「保護樹木等指定事業」
もう一度資料を洗い直し、それらを来年度候補に挙げていきたい。
- 資料3-6 「生垣設置助成制度について」
29年度の申請は1件である。相談には来られるものの条件に合わず、数件お断りしている。
- 資料3-7 「コミュニティパーク事業」
真弓1丁目公園の写真や全体の設計図を5ページから載せている。
- 参加者の方のご意見から保護樹木のホームページを更新しようと作成しており、ご意見をいただきたい。
(作成したものをスクリーンに映す)

【委員意見等】

- 市が保護樹木のルート図も示すことは悪くはないが、他の施設とのバランスが取れていない。(発言)
⇒ご指摘をうけて、内部で検討しバランスを考えていきたい。
- この保護樹木のうち、景観重要樹木にはどう移行していくのか、その基準もどうするのか気になる。
景観的に必要となってくる。全国的にも少ないので、先駆けていくのかも含めて検討の余地はある。
(発言)

【事務局説明】

- 事後報告になるが、指定番号4番は枝がおちて危ないため、指定解除してほしいと所有者からの申し出があり、指定解除した。現在は伐採されている。

【事務局説明】

- 資料3-8 「花のまちづくりセンター」
(1) 花と緑のわがまちづくり助成制度 平成29年度は102件。

(2) 月例講習会・教室等の状況

- ・講師の方に来ていただきフラワーアレンジメント等の教室や、緑の相談員による庭木の管理講習会をおこなっている。
- ・花好き自然好き市民交流サロンは、2か月に1回集まって情報交換し、その結果をもとにサロンニュースを発行している。参加人数が非常に少ない状況にあり、今後、新たな運営方法を検討する。

(3) “C a f eふろーらむ” の運営補助

- ・最近はふろーらむのイベントとコラボし、イベントではメニューを増やすなど活発に活動している。

(4) ふろーらむイベント（春・秋）

- ・29年度春は、多くの来場者であった。例年秋は、11月に学研、商工会、農業祭と連携し、同じ日に開催していたが、来場者が各会場に分散してしまうので、今年度は10月に単独で開催する準備をしていた。しかし、台風のため中止となった。平成30年度春については、5月の13日（日）におこなう予定をしている。

(5) 花と緑の景観まちづくりコンテスト

- ・平成29年度は17件の応募であった。応募が減ってきているのが実情である。しかし、学校関係へのご案内や個人が応募しやすい状況をつくり、活性化していきたい。

(6) 緑の相談室

- ・火曜日・木曜日・日曜日はふろーらむ、金曜日午前はたけまるホール、午後は南コミュニティセンターで、緑の相談委員による花と樹木の相談を行っている。

【委員意見等】

- ・応募人数も減り、ボランティアの高齢化と人数が減少するなかで、生駒市はどうしていくのか。資金を出してほしいというのではなく、何かよい仕組み作りができないか。（発言）
⇒緑の基金支出で多くを占めているのは花と緑のわがまちづくり助成である。これからも助成は続くと思うが永年ではない。これは、助成せずとも皆で活動できるようになるきっかけづくりであると感じている。
生駒市緑の基金を使った助成は続けられる。
- ・10年で半分になっているので、あと10年は続けられるということだ。（発言）
- ・住宅都市であるためサラリーマン世帯が多く、イベントごとに多額の資金を集められる状況にはない。生駒の住宅都市の弱点である。（発言）
- ・生駒市は定住者を増やすために色々なイベントを行っていることは評価するが、何か残るようなイベントではない。残すと維持管理などの費用がかかり大変だが、仕組みづくりだと思う。アイデアをもっと出してほしい。（発言）
- ・技術を持っている、お金を持っている、土地を持っている方達が、どれだけ結束できるかが大きく、

事務局も含めて繋ぐという仕掛けをどのようにして作っていいのかだと思う。(発言)

- 生駒市にある未利用地を管理する団体があれば、人が集まると思う。(発言)
- 昨年、IKOMA サマーセミナーが始まった。皆さんも講師になり、森のボランティアや花植えの講座を持ち込めば良いPRになると思う。(発言)
- 平昌オリンピックカーリングで、銅メダルをとった。自分の出身地に帰ってチームを創った。そういう何人かが頑張っている地域がこれから活性化していく。逆にいうと市役所とか補助金頼りのところは、たぶん潰れていく。生駒市民で、そういう人や団体を発掘するということだ。ストレートに言うと、簡単に市役所がお金を出さないということである。(発言)
- 都市緑地法が改正されて、緑の基本計画の見直しが必要になってくる。その中で、生駒市は樹林地バンクや市民の森などを10年ほど前から先進的に取り込み、緑に関する先進市として他の自治体へ紹介できる市であった。人数が限られて大変だが、ボランティアの力を借りて運営していることは非常に効果的だと思う。

いろいろ見直し時期になったときに、役所の方は決まった内容でしか発言できないようだ。もう少しフランクな場があってもよい。それがこの場だと思う。役所の一人ではなくて、個人的に意見を述べたり、一問一答式でなく、皆で議論する会議を来年度はやっていけたらと思う。意志の疎通もできるし、(みどり公園課が)考えていることを、懇話会が後押しすることで市が動けるようになるかもしれない。時点修正と同時に、この会のありかたがフランクであってよいと思う。(発言)

- 懇話会であって、委員会や審議会ではないので、懇話ができるとういと思う。(発言)
- 基金の大切さ、浄財であるお金を渡しているという制度は大切にされた方がよい。(発言)
- この推進してきた緑の基本計画を見直す時期がすでに来ていると思う。今後、緑の基本計画については、生駒市なり懇話会で進めてほしい。中途半端な状態でおいておきたくない。(発言)
- 来年度からのひとつの大きな目標は、改めて緑の基本計画の評価をして、変えるところは変えていく作業である。来年度以降の大きな柱かと思う。(発言)

(4) その他

- 都市整備部長からお礼のあいさつ。

(5) 閉会